



8/30(日) 31(月) 9/1(火)



川崎スポーツ

レース展望

8月30日からの川崎競輪は競輪ワールドシリーズ昼間開催で、スピCHスカパー杯。もちろん今回のシリーズリーダーは世界チャンピオンのラブレイセン(オランダ)であり、そのパワーとスピードを存分に披露してくれるはずだ。21年東京・24年パリ五輪でケイリン・スプリント金メダル2冠を達成した実力者で、20年以降の世界選手権でも個人種目は全て金メダルと向かうところ敵なし状態。今年が日本初出走となるが、6月防府・7月岸和田・立川で連勝を決め、8月和歌山GⅢでは決勝でトゥルーマンに追込まれてしまったものの、毎レース最終ホームから一気にカマシての主導権から押し切る組立ては、別線勢に全く付く隙を与えない。ここでも完全Vは揺るがなそう

だ。迎え撃つ日本勢もなかなか豪華な布陣で、徹底先行北井佑季(神奈川119期)・杉浦侑吾(栃木115期)・山崎賢人(長崎111期)・岩井芯(岐阜125期)・丸山留依(静岡127機)がレースを作り、佐々木真也(神奈川117期)・渡邊雅也(静岡117期)・成田和也(福島88期)・佐藤一伸(福島94期)・桑原大志(山口80期)・中川誠一郎(熊本85期)がそれに続いて好連係を目論む。ただし、ラブレイセン相手に2段駆けで抵抗する可能性もあれば、番手を回って連係を模索するメンバー構成になる場面も考えられるだけに、どのような番組が組まれるか興味は尽きない。

そしてガールズケイリンにはファンデルワウ(オランダ)とグロ(フランス)が登場する。ファンデル

ワウはパリ五輪ケイリン銀メダリストであり、世界選手権でも数多くのメダルを獲得。今年が初の競輪となり優勝こそ1回しかないが、3連対率はもちろん100%。グロは7年ぶりの競輪出走となるが、22年世界選手権ではスプリント金を獲得しており、ここの勝負強さは十分ある。日本勢では児玉碧衣(福岡108期)と柳原真緒(福井114期)が欧州両者に割って入れるかに興味が集まる。佐世保女子ASで決勝3着に食い込んだ児玉は変わらず好調キープで、柳原もその機動パワーは決して軽視できないだろう。

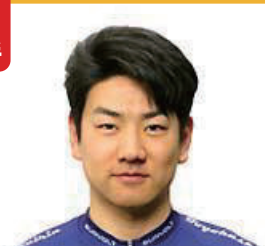
S級
主力選手



ラブレイセン オランダ

東京・パリ五輪スプリントで金メダルを獲得するなど、数々の栄冠を手にしてきた自転車界のスーパースター。和歌山GⅢの決勝でトゥルーマンに交されるまでは来日11連勝を決めるなど圧倒的な力を見せている。初のワールドシリーズを有終の美で飾れるか。

S級
主力選手



杉浦侑吾 栃木 115期

愛知から栃木に移籍して1年近く経つが、関東の徹底先行型として徐々に存在感を増してきた。GIの舞台での活躍も増えており、関東の頼れる機動型として躍動。積極的は走りが魅力だが、捲りの威力も抜群であり、海外のパワーにどれだけ太刀打ちできるか。

S級
主力選手



北井佑季 神奈川 119期

長期欠場から今年復帰して、A級からの再出発となったが、4ヶ月でS級特進を果たすなど、力の違いを見せつけた。本人はまだ納得いく状態ではないようだが、名古屋GⅢで優勝を決めるなど、上位に十分に通用する機動力。再び頂点を目指す走りに注目したい。

A級
注目選手

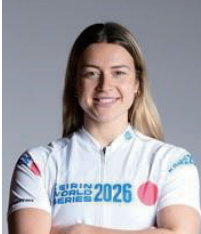
竹内 翼 広島 109期



今期は約10年ぶりにA降級となったが、グレードレースでも活躍した機動力はまだ健在で、ここでは一格上の存在とみていい。6月の地元広島では、S級準決勝を逃げ切り勝ちで優出を果たすなど、完全に力が落ちて降級した訳ではない。今期もV候補筆頭だ。

ガールズ
注目選手

グ ロ フランス

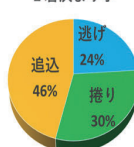


世界屈伸のスプリント能力を誇り、来日は3回目でガールズケイリンファンにもなじみの深い選手。今シーズン初戦の防府決勝では失格しているものの、それ以外は着外なしの大活躍だが、今シーズンの優勝はまだ一回だけ。最後の川崎は機動力発揮してVで締める。

川崎競輪場バンクガイド (2024年1月~12月データ)

昨年1年間28開催・936レース(ガールズケイリンを含む)の川崎バンクの決まり手は右表の通り。昨年までのデータと逃げ・捲り・追込・マークのパーセンテージには大して変わりはないが、1着に限って言えば逃げ・捲りの決まり手は変わらず50%を超えているので、自力型のアタマから組み立ていく車券戦略が可能だろう。川崎名物イエローライン付近のゴール前強襲は、選手たちも新バンクに慣れて徐々に出現率が高くなってきている感じで、力のある追込型はたとえ後方に置かれたとしても、最終4コーナーから一気に巻き返す可能性もあり軽視出来ない印象だ。

1着決まり手



2着決まり手



圧倒的なパワーを誇るヨーロッパ勢!!